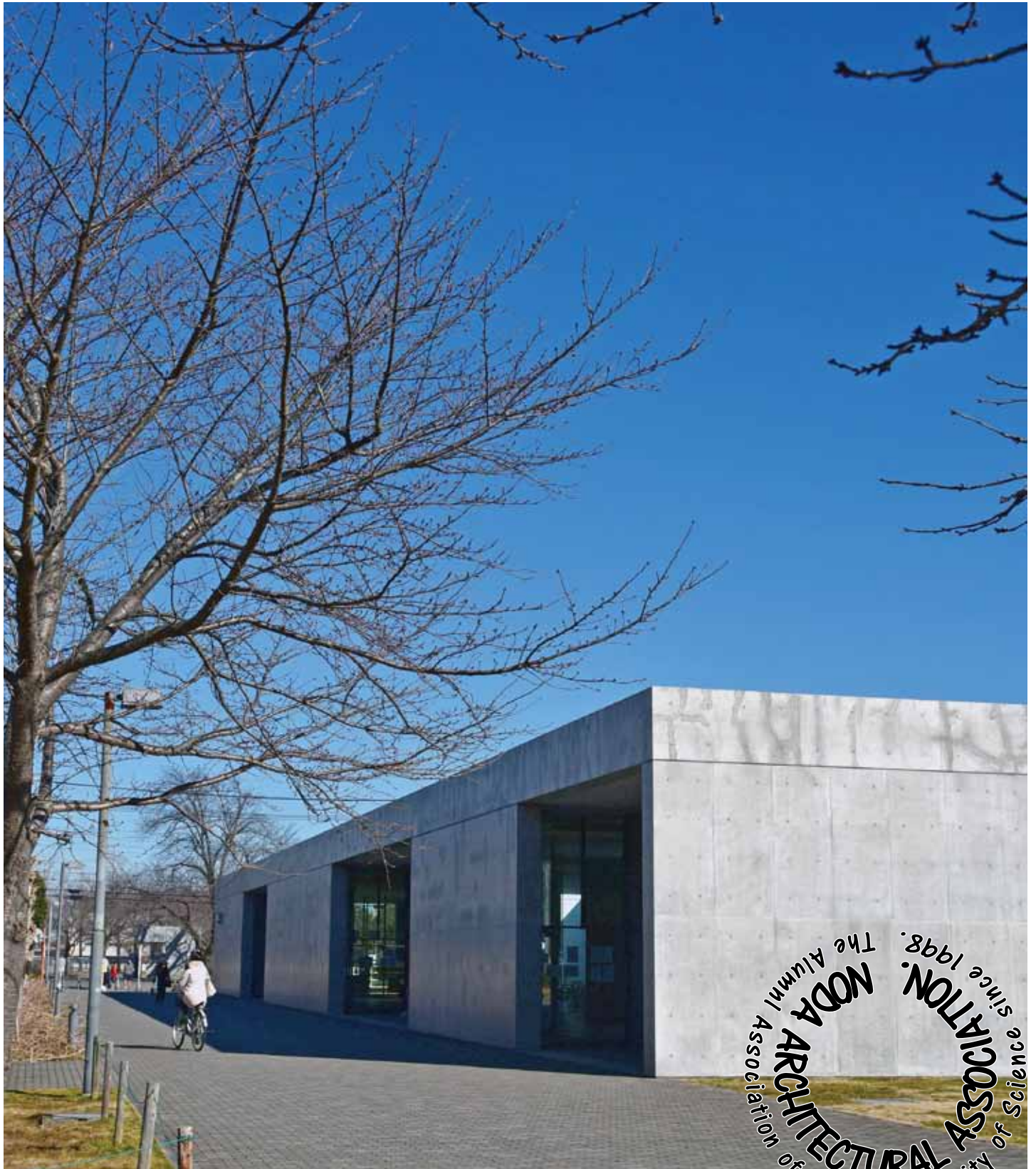


VOL.37 2017 SPRING



カフェテリアのあるコミュニケーション棟（略してC棟）の冬景色

The Alumni Association of Science since 1948.
NODA ARCHITECTURAL ASSOCIATION.
The Alumni Association of Tokyo University of Science

小嶋一浩先生を偲んで

小嶋研究室 元助教 佐貫 大輔 (2000 年修了)

情けないことに、小嶋さんが亡くなられてから 4 ヶ月になろうとしているのですが、そのあまりにも早い死という現実を未だに受け入れられない自分がいます。2008 年に助教を辞して 2009 年末にベトナムに移ってから小嶋さんとお話する機会は少なくなりましたが、メールや年に 1~2 度帰国の折にお会いして、そのたびに励まされ、時には叱責され、建築へのモチベーションを上げて頂きました。OB、OG の多くは小嶋さんに認められることを目標にしていました。自分がやった仕事をみせたい、コンペで戦いたい、今夢中になっていることを話したい。なのにそのチャンスはもう無い。ズルいですよ、小嶋さん。

以前、小嶋さんから頂いたメールの中にこんな一節がありました。

“「対象化」「相対化」できるかどうかは、私たちにとっても同じように大事です。そうでないなら、たいがいのことは「はいはい」ということ聞いて進めちゃった方が簡単ですから。時々なんのためにここまで戦っているのだろうとおもいつつも。”

圧倒的な知性と戦略で、既存の制度や枠組みと戦い、ときには敗れたとしてもその先にある建築の可能性に向かって進む。この戦う姿勢を学べたことが僕たちにとってかけがえのないものなのだと思います。偉大な師匠、乗り越えたい建築家、皆の道標。厳しく、熱く、夢中で少し抜けているひと。一緒に戦えた奇跡のような時間を、誇らしく思う。

研究室での 15 年間で教わったたくさんの大切なことに、いつか恩返ししたいと思っています。いつもどこかで小嶋さんが見てくれていることを信じて。



2011 年
パナマワークショップにて

そう呼ばれることを嫌っていたけど、最後に言わせて下さい。先生、本当にありがとうございました。

小嶋研究室 元助教 坂下 加代子 (2002 年修了)

コジケン

-20〇〇年 11 月〇日 -

次年度、小嶋研希望者へ

下記を準備しておくこと。

□リスト内から作家を選択してその長編小説 (300 ページ以上) を読む

チャンドラー、マルケス、村上春樹、村上龍、桐野夏生、三島由紀夫、レイモンド・カーヴァー、安部 公房、大江 健三郎、沢木 耕太郎、谷崎 潤一郎、フィッツジェラルド

□ポートフォリオの提出

・フォーマットは自由

□10 年後の自分というタイトルでエッセイを提出

・800 字程度

□今年の卒業設計の批評文の提出

・800 字程度

〇月〇日に Cat にて面接を予定しています。

時間は個別に追って連絡します。

助教サカカヨ



2012 年
コジケン集合写真

上原孝雄先生を偲んで

大宮 喜文 (1996 年修了) 現建築学科教授

上原孝雄先生は 2016 年 12 月 7 日ご逝去されました。

享年 92 歳でした。ご生前のご功績を偲んで、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、昭和 23 年京都大学工学部建築学科をご卒業され、運輸省鉄道総局、鉄道技術研究所を経て、昭和 50 年に東京理科大学理工学部建築学科教授にご着任され、平成 6 年まで 20 年余にわたり東京理科大学の教育・研究の発展に多大な貢献を果たされました。

先生は、鉄道建築に関わる建築計画学を学問として確立された先駆者であり、駅舎の旅客流動性状の解明にご尽力され、多くのご功績を残されました。

大学では、常に温和で穏やかな振る舞い、そして、高知のご出身を感じさせる義侠心のある気骨なお人柄に救われた門下生は数知れません。

東京理科大学をご退職後も、理工学部建築学科の発展にお気遣いいただき、同窓会組織の維持などへのご配慮を賜りました。

今、改めて先生のご功績に対して深甚なる敬意を表しますとともに、先生のごこれまでのご薫陶に心より謝意を申し上げます。

先生のご冥福を謹んでお祈り申し上げます。



昭和 60 年ゼミ旅行-那須茶臼岳にて-



昭和 58 年ゼミ旅行 打ち上げ

上原研究室 元助手 佐藤 克志 (1983 年修了)
現日本女子大学住居学科教授

昨年の 12 月初旬に届いた上原先生の訃報を知らせる一通のメール・・・何度も見返しました。その 3 週間ほど前に開催された研究室 OB 会でお元気な姿を拝見したばかりでしたので信じられないという思いからの行動でした。

先生の思い出は卒業研究の指導、ゼミ旅行、スキー旅行、学会出張など、この紙面では書ききれませんが、一貫して「学生の考え・思いを尊重した上での的確な指導」があったと思っています。助手としても多くのことを学ばせて頂きました。

私は現在上原先生と同じ仕事 (大学教員) をやっています。先生の学生に対する姿勢を実践することは簡単ではありませんが、研究テーマや学生指導方法など、上原研究室で学んだことを少しでも継承できるよう努力し続けたいと思っています。

私のことだけではありませんが、先生がまかれた種が教え子を介して実を結ぶ、その活動を見守ってください。

本当に有難うございました。ご冥福をお祈り申し上げます。



昭和 58 年 日本建築学会参加の後に立ち寄った飛騨高山

新任助教のご挨拶



西尾 悠平 (にしお ゆうへい)

2010年 東京大学工学部建築学科 卒業
2013年 東京大学大学院工学系研究科
建築学専攻 修士課程修了
2016年 東京大学大学院工学系研究科
建築学専攻 博士課程修了
2016年 10月
東京理科大学理工学部 建築学科 助教

平成 28 年 9 月に東京大学大学院博士課程を修了後、平成 28 年 10 月より東京理科大学理工学部建築学科に助教として着任致しました。専門は建築材料・建築防災です。

大学院に在学中は、既存建築物の劣化調査、コンクリートの耐火性能の検証、建築内外装材の防火性能試験方法に関する研究と幅広く研究に取り組んできました。

博士課程では『ファサード型火災実験を用いた可燃性外装の燃え拡がり性状及び評価基準に関する研究』という題目で、外断熱工法をはじめとする可燃性外装材の防火性能評価に関する研究を行いました。

最近では建築外装材の防火試験方法の研究から、外装材として用いる難燃処理木材の防火性能の経年劣化に関する研究にも展開しています。今後は建築防災の研究に関して、材料の耐火性能を中心に研究を広げていきたいと考えています。

また、建築材料に関してもコンクリートを中心に幅広く研究を行っていく所存です。

本学部での教育・研究に貢献できるよう頑張っていきますので、宜しくお願いいたします。

退任助教のご挨拶



柄沢 祐輔 (からさわ ゆうすけ)

1976年 東京都生まれ
1999年 慶応義塾大学環境情報学部卒業
2001年 慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科建築・都市デザインコース修了
2001年～2002年
慶応義塾大学 SFC 研究所研究員
2002年～2003年
文化庁派遣芸術家在外研修制度にて MVRDV (蘭) に在籍
2004年～2005年 坂茂建築設計勤務
2006年 柄沢祐輔建築設計事務所設立
2012年～2017年
東京理科大学理工学部建築学科助教

2012年の6月から2017年の3月まで助教として勤めさせていただきました。

私の担当の授業科目は2年生の設計演習と修士設計でしたが、助教として初見先生の退官までの最後の2年間に研究室の学生の研究指導にあたり、その後の3年間は岩岡竜夫先生の研究室の学生の研究指導にあたりました。

特に印象的だった記憶は、初見先生の教育の方法です。

初見先生の指導の方針は極めてユニークで、設計の演習の授業および研究室での学生の指導の方針は傍らで携わっているだけでも大変な刺激になり、勉強になりました。

設計を教えるという行為は大変難しく、特に設計の前提となる空間を把握する能力というのは体得するのが本当に困難ですが、初見先生が考案された教育の方法は学生の空間把握能力を明らかに高めており、通常は困難な設計教育が実現されていることに舌を巻きました。

このような経験を今後の設計活動、研究活動等に活かしていきたいと考えています。

研究室 OB 会特集

富澤研究室 OB・集う会

平成 28 年 7 月 9 日開催

出水 俊彦 (1982 年卒)

富澤研究室 OB 会を開催 (於: 理窓会倶楽部) しました。

富澤先生ご退職(1997.3)から20年近く経過し、この間 OB 会として参集する機会が得られないまま本会を迎えた経緯から“集う会”として開催しました。富澤先生におかれましては御息災で居られますが、大人数となる席は遠慮したいとのご意向で残念ながらご出席頂くことは叶いませんでした。本会開催に向けて、発起人となった山田さん(1974年卒)の方で富澤先生、OB各位へ連絡を取り尽力いただきました。

同日は、理工学部0期と称される研究室1期生から最後の修了生まで30名弱の参加となり、関西方面からも駆け付けていただきました。同期との旧交を温め、世代を交えて当時を回顧し、近況や建築について語り合い、3時間の会も盛況に執り行われ有意義な時間を共有できました。途中、富澤先生からのメッセージと学会会報に投稿された書簡を紹介し、参加者一同、先生が持たれる構造設計の理念を改めて教えられる一幕もありました。残念ながら参加が叶わなかった OB 諸氏やご案内できなかった方々も含め、次回また参集できる機会を期待しております。

(問い合わせ、通信はこちらにお願いいたします: a22528@rs.tus.ac.jp)



第3回なみの会

平成28年9月24日開催

涌井 栄治 (1985年卒)

2016年9月24日(土)に第3回なみの会(井口研・永野研OB/OG会)が開催されました。

なみの会は、第1回(2014年9月)、第2回(2015年9月)ともに神楽坂の森戸記念館でおこなわれてきましたが、第3回なみの会は東京理科大学金町キャンパスにて、キャンパス見学会+研究発表会+懇親会という形でおこなわれました。あいにくの雨模様でしたが、井口研第1期生から永野研現学部生まで多くの方が出席されました。

見学会(13:00～)では、図書館棟の所長をされた粟飯原功一さん(竹中工務店。昭和60年卒井口研OB)により、図書館棟を中心に所長ならではの詳細な説明がありました。研究発表会(15:00～)では、井口道雄先生の近況、永野正行先生・九州大学の佐藤利昭先生・建研の石原直先生からは2016年4月14日、16日に発生した熊本地震の概要・被害状況の説明がありました。その後、懇親会(17:00～)がキャンパス内の食堂2階で行われ、各人の近況などの報告があり、あっという間の6時間でした。

来年も「なみの会」は開催予定です。多くのOB/OGのご参加をお待ちしています。



奥田研究室OB会2016

平成28年10月30日開催

吉村 孝太郎 (1994年卒)



平成28年10月30日(日)代々木公園内で肌寒い天候の中、恒例のOB会が行なわれました。参加者各人が飲食物を持ち寄り、昼一の開始から、だらだらと人が集まり、ゆる～い感じで会が進んでいきます。お酒も進み自己紹介を始めたところ饒舌な皆さんは話が止まらず、周囲が暗くなるまで続きました。その後はお腹もいっぱいになったにもかかわらず、二次会はオシャレな原宿のcaféで、これまた年代の垣根を越えてワイワイ盛り上がりしました。奥田先生も地元のプロジェクトに精力的に取り組まれており、とてもお元気でした。奥様も各OBのことをよくご存知で、以前と変わらず場の雰囲気を明るくしてくれます。

私、熊本在住で仕事の都合と相成って今回初めて参加しました。同期にも久しぶりに出会い楽しい時を過ごすことができました。本年は熊本震災も経験し何かと大変な時期でもありましたが、懐かしい顔ぶれから沢山のパワーを頂きました。今後も出来る限り都合をつけて参加したいと思いました。

2016年上原研究室OB会

平成28年11月19日開催

星合 善文 (1988年卒)

2016年11月19日土曜日に上原孝雄先生を囲んで上原研究室OB会が開催されました。

上原研究室があった昭和50年(1975年)から平成6年(2004年)までの20年間の卒業生、修了生の総数は281名。先生のご自宅近くを選んだ船橋駅前の船橋グランドホテルの宴会場には24名のOBが集まり先生を囲んで和やかな時間を過ごしました。

ひとり30秒厳守の高速自己紹介や、前年に引き続いて上原先生のご趣味であるハンスウエグナーの手製ミニチュアチェア1脚を争奪するピンゴゲームが行われ、昭和59年卒の石井孝志さんがこの貴重な1脚を手にして、会はおおいに盛り上がりしました。

最後に先生のスピーチがあり「笑いが大切だと思うようになった。どうかみなさんも笑って暮らしてください。」との言葉をいただきました。

先生は終始、背筋を伸ばし、昔と変わらないよく通る声で話され、92歳とは思えない元気さを見せられていました。

今年のOB会も和やかに散会となり、先生とは来年もきつとお会いできるものと出席者の誰もが確信していたものの、19日後の12月7日に先生は急逝され、このOB会が先生を囲む最後のOB会になってしまいました。

かねてから先生はOB同士が懇親を深めてほしいと望まれており、先生がお亡くなりになられた後こそ、いつそうOB会を盛り上げてゆかなくてはならないことを改めて認識する契機ともなりました。



(1) 発足から今までの概要：今回で5年目となった、利根運河シアターナイトは野田キャンパスのそばを流れる利根運河を舞台に行っている。普段はあまり交ざりあうことのない地域の方々との交流の場を新たに創造することを目的としていて、毎年、理工学部建築学科の一年生から三年生までで実行委員会をつくり、地域の方々と協力しながら行っている。その年ごとに実行委員会は再編されるので、毎年特色のあるものが行われる。



市民出店者による屋台と学生の演奏会

(2) 今回の概要：今年のシアターナイトのテーマは「夢境(ゆめざかい)」。「人々や利根運河にとって、シアターナイトが夢であったような一日にしたい」というコンセプトで行った。

今年のシアターナイトでは、毎月一回、利根運河で行われている朝市に目をつけ、通常夕方からの開催だったものを学生がデザインした朝市からはじまるものとした。朝市から始まり、屋外ワークショップ、学生制作作品のインスタレーション、屋外での映画上映などを行い、



川辺のスクリーンに映像上映と灯籠流しが行われた



今回のポスター

日頃見慣れた空間を非日常の空間にすることを目指した。

当日は台風の影響による急な天候変化により、当初の予定から変更せざるを得ない点が出てきたが、悪い状況の中でどうしていくかなど学生の中で対話をして対処できたことは良い経験になったのではないか。

雨の降る中およそ4000人の方々にご来場いただいたことは大変嬉しく思う。ご来場された方、実行委員の当日の笑顔は今後のこういった活動の一番の活力になるのではないか。

(3) 感想：地域の方々と共にシアターナイトをつくりあげていく中で、たくさんの新しい発見があった。こういった経験は今後とても役に立っていくと思う。今後、こういった活動が後輩に引き継がれて活発に起こって欲しい。



地域住民も加わった賑わい

運河の土手は、緑の斜面が向き合って谷の空間を形成しているため、様々な仕掛けを一望することができる。会場の入口にあたる市場は、20～30程の屋台が向き合い通路をつくり、通路にかけられた白い不織布の覆いが軽やかに屋台どうしをつないで、運河の緑豊かな風景に



運河駅2階構内の展示スペース

さわやかな印象を加えていた。

今年のシアターナイトはあいにくの小雨の中、10時頃スタートし

た朝市からはじまり夜9時のシアター終了まで丸1日かけて行われた。夜には学生が長靴で川に入り約500個の灯籠を流すイベントを見る事ができた。（下流では回収できるように堰がつくられている）

自分たちで費用を調達し、出店者や協力者を集める行動力は素晴らしいと思う。約30人の有志がこの1日のために夏休みを準備に費やしてきたとのことで、学生達の生き生きと活動する様子には心動かされる。

夜は地元の人達が集まってきて、屋台で食べ物を買って段状のステージ席に思い思いに座り、スクリーンを眺めていた。スクリーンの背景には、向こう岸に光のインスタレーションが散らばり水上には灯籠が浮かび、まさにテーマに謳うような夢のような光景が作り出されていたと思う。

建築見学会

井上研究室助教 高瀬 幸造

2016年12月13日、YKK80ビル見学会が開催されました。

JR秋葉原駅近くの昭和通り沿いにある旧本社の建替計画であり、建築主はYKK不動産株式会社で、YKK株式会社およびYKK AP株式会社が入居しているビルです。設計は日建設計により、米国発の建築環境性能評価指標LEEDの最高グレードであるプラチナ認証を、国内の新築テナントビルとして初取得した建築となっています。

外観の特徴としては、西側全面に採用されたYKK製のアルミ押し出し成型ルーバーが繊細にきらめき、シャープなファサードデザインとなっています。

このルーバー部材はYバーと呼ばれていましたが、モックアップによる強度面等での検討の末、偶然にも施主社名の頭文字をモチーフとしたY字断面のルーバーが採用されたとのことでした。この部材はホール等の内装にも使われており、人工照明と組み合わせることで優美に輝いているのも印象的となっていました。

環境性能においては、ルーバー以外にも、2重サッシの内部に下からせり上がる自動制御クライマーブラインドが採用されている他、メンテナンスおよび外気導入用ダクトスペースを兼ねたバルコニーが庇としても機能し、熱性能を犠牲にすることなく適切な採光・眺望性が確保されています。

雑然とした周辺都市空間との適切な距離感を保ちながら、良好な室内環境を形成するという課題に対して、施主・設計者がチーム一丸となって上手く解答したファサードシステムであると感じました。

また、設備面でも放射パネル・デシカント空調、昼光・人感センサー連動制御LED器具によるタスクアンビエント照明、節水型衛生器具等の採用により、快適かつ省



エネとなる工夫が随所に見られる他、オープンなワークスペースやリフレッシュエリアの配置、免震構造、BCP対策等のきめ細やかな設計で、都市型オフィスとしての在り方が提案されていました。

今回は平日開催ということもあり、OB・OGの方だけでなく、現役学生11名も参加させていただいての見学会でした。

YKK80ビルの空調・外皮計画および環境性能検証には、井上研OBの方や井上研助教を務められていた一ノ瀬雅之先生（現・首都大学東京准教授）も関わられており、参加者にも大きな刺激となったことと思います。

また、お忙しい中で見学対応いただいたYKK APの皆様および、計画のご説明いただいた日建設計の設計部・小倉様、設備設計部・本郷様にはこの場をお借りして感謝申し上げます。

2017年築理会野田建築会合同新年会

山崎 晃弘 (1976年卒)

1月18日に第2回築理会野田建築会合同新年会が理窓会倶楽部で開催されました。

築理会から40名+学生2名、野田建築会から15名+学生3名の出席者が集い、総勢60名程でさらに深い交流がなされたことをご報告します。

経験豊かな諸先輩や若い後輩に囲まれ、ここだけの貴重な話?も聞くことができます。

これからも毎年行う予定ですので、皆様方からの数多くのご参加をお待ちしています。



◆ 2017年度必修科目建築学入門のうちOBと語る会が4回開催されます。

(4/12・4/19・4/22・5/10の各4時限 16:10～17:40)

◆ 築理会女子部会と協同活動します。

ご参加、お問い合わせは chikujo@planetgear.net まで。

【2017年イベント情報】

理工学部創設50周年記念式典 ※利根運河シアターナイトも同時開催予定

日時 9月23日(土) 10:00～12:00(予定)

場所 野田キャンパス 1211 教室

東京理科大学ホームカミングデー 2017 in 野田キャンパス & 理工学部創設50周年記念祝賀会

日時 10月29日(日) 10:00～17:00

場所 野田キャンパス

詳細は 理窓会 <http://tus-alumni.risoukai.tus.ac.jp/>

野田建築50周年大同窓会(ホームカミングデー2017と同日開催)

日時 10月29日(日) 10:00～17:00 記念設計競技表彰式・記念講演会・研究室OB会パネル展示ほか
17:30～19:30 大同窓会懇親会(懇親会参加者には50周年記念誌贈呈)

詳細・懇親会申し込みは 理工学部建築学科 <http://www.ar.noda.tus.ac.jp/> (4月に全卒業生へ案内状を郵送)

会費納入のお願い

NAAでは会則により、2017年度(2017年4月1日～2018年3月31日)の普通会員年会費として3,000円を徴収しています。これらは会報の発行、OBと語る会の開催、見学会等の研修、NAA賞の授与、NAAサイトの維持その他NAAの活動に有効に活用されています。こうしたNAAの運営に向け、同窓生の皆様のご理解とご協力をいただき、同封の振込用紙にて会費納入をお願いいたします。(お手数ですが、納入者確認のため、振込用紙には卒業年を必ずご記入ください)

※会費納入がない場合は、今号を最終発送とする場合があります。

野田建築会会報 VOL.37 2017 SPRING

2017年3月10日

編集:会報部会(とりやま あきこ/山崎 晃弘)

発行:東京理科大学野田建築会

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会

お問合せおよびメルマガ登録はこちらから——

<http://www.rikadaikenchiku.com>